

●事業所の好事例

1 令和2年度 先駆的取組みシンポジウムより

- (1) 「機器の活用による、自立支援と働きやすさの創出について」 特別養護老人ホーム 砧ホーム
- (2) 「持ち上げない介護」 特別養護老人ホーム エリザベート成城
- (3) 「訪問介護事業における ICT の取組み～スマートフォンの活用～」
世田谷ホームヘルプサービス・烏山ホームヘルプサービス

2 令和3年度 先駆的取組みシンポジウムより

- (1) 「デジタル機器の活用と業務改善へ向けた取組み」 特別養護老人ホーム 久我山園
- (2) 「持ち上げない介護の取組み」 特別養護老人ホーム 上北沢ホーム
- (3) 「外国人人材、認知症緩和ケア日本版 BPSD ケアプログラムの活用」 特別養護老人ホーム等々力の家
- (4) 「職員の離職防止の取組み」 株式会社やさしい手

3 令和4年度 先駆的取組みシンポジウムより

- (1) 「皮膚トラブル管理への写真の活用の開始とその副次効果」 特別養護老人ホーム 芦花ホーム
- (2) 「ICT 導入による業務改善に向けた取組み～導入後に変わったこと・わかったこと～」
特別養護老人ホーム 博水の郷
- (3) 「通所リハの介護機器・ICT・生産性向上のこれまでと今後」 成城リハケア病院通所リハ
- (4) 「訪問介護のノーリフト研修と実践～腰痛予防・お客様と介護者の自立支援・負担軽減～」
みずたま介護ステーション明大前、三軒茶屋

詳細は

世田谷区福祉人材育成・研修センターHP> 福祉の理解・福祉のしごと・先駆的な取組み
> 福祉のしごと・先駆的な取組み> 先駆的な取組みシンポジウム

- ・ [令和4年度](#)
- ・ [令和3年度](#)
- ・ [令和2年度](#) からご覧ください。

1 令和2年度 先駆的取組みシンポジウムより

(1)「機器の活用による、自立支援と働きやすさの創出について」

鈴木健太 氏 (特別養護老人ホーム砧ホーム施設長)

介護専門職としての取組み

キャリア段階制度 2014年
実践・研究発表 2015年
持ち上げない介護 2017年
ICTがアプレン 2019年

ICT 2018年～本格化

記録入力
インカム
Wi-Fi
見守り支援機器

福祉の森FUTURE
タブレットシステム
タブレット
×10台接続

シルエット見守りセンサ
×5台
(介護ロボット)

TB-eye クリアトークカム10
×10台
Wi-Fi対応インカム
・クリアな音質
・双方向同時通話

砧ホームで活用している介護ロボット

マッスルスーツ/Edge/Every ×6台
シルエット見守りセンサ ×5台

2016年～

なでなでねこちゃん DX2 ×1台
PARO ×1台
見守りケアシステム M1/M2 ×14台

見守り支援機器

見守属性	安全系	バイタル系
メリット	事故防止 自立支援	自立支援 (事故防止)
通信環境	ナースコール経由 Wi-Fi経由(画像) Wi-Fi経由 LAN経由	

シルエット見守りセンサ (設置/検知)

端末 本体 設置例

検知の種類

- 起き上がり検知
- はみ出し検知
- 離床検知

【出典】 キング通信工業株式会社 HPより 【写真】 砧ホーム

シルエット見守りセンサ (履歴機能)

① 検知 30秒前 → はみ出し検知 → ②

③ 検知 30秒後

事故の見える化

☆ 事故の本質的な要因にせまる
核心的な再発予防策の立案が可能!

⇒ 事故の再発を防止
⇒ 生活の質の向上
⇒ ケアの生産性の向上

起立補助具 FLITZ (フリッツ)

【出典】 シャープジャパン株式会社 FLITZ紹介動画より

機器の活用によるメリット

- 直接的効果 ⇒ 働きやすい職場
働き続けられる職場
- 副次的効果 ⇒ 働きたい職場
- ◎超副次的効果 ⇒ 働きがいのある職場

・ 試行錯誤しながら使いこなすことで高まる課題解決力 実感
・ 自律的に進化できるポジティブでアクティブな職員育成 自信
・ 変化することを恐れないチャレンジングな組織風土 意欲

導入以降5年間に入職の8名全員就業継続中

(2)「持ち上げない介護」

長田 吉生氏(特別養護老人ホーム エリザベート成城 GM)

<ノーリフティングケア>



内出血が絶えない・・・

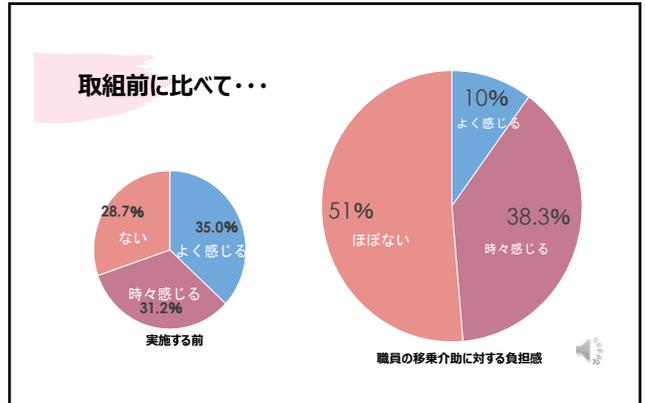
職員も入居者も落ち着いて
移乗することが可能に。
内出血は発生は激減した

12

誰でも働ける職場を目指して

今私妊娠8ヶ月目っていうことなんですけど

14



まとめ

- ✓ 「時間がかかる、面倒だなあ」から始まった。取り組んでいくと・・・
- ✓ 入居者、職員共に「喜び」を共有できるケア
- ✓ 「抱える」「持ち上げる」「引きずる」**介護は終わりにしよう!**

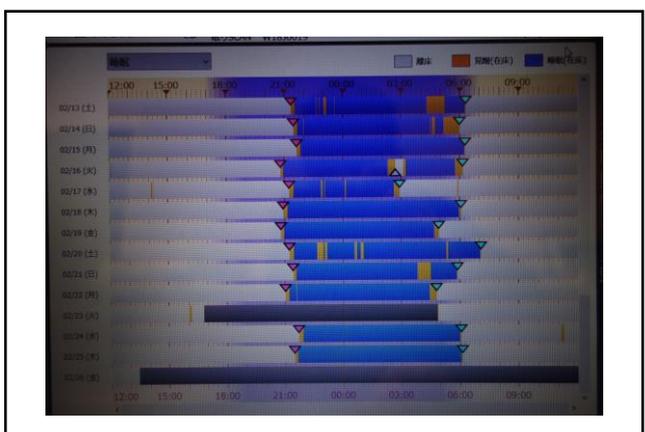
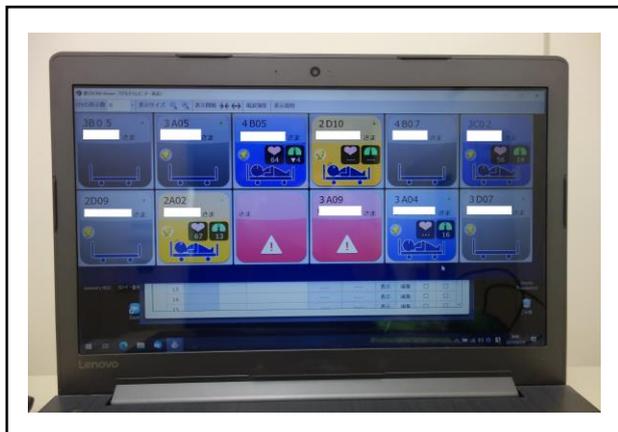
入居者、職員の笑顔のために・・・

これからもノーリフティングケアを推進を宣言します!

ご清聴ありがとうございました

17

<眠りスキャン>



(3) 「訪問介護事業における ICT の取組み～スマートフォンの活用～」

日暮裕子氏(世田谷ホームヘルプサービス所長) 芳村裕子氏(烏山ホームヘルプサービス所長)

<ICT の導入>

サービス記録方法の変化

記録用紙



➔

記録の電子化
スマートフォンの活用



スマートフォンの操作説明会の実情

サービス提供責任者向け 4回

ヘルパー向け 16回

ICT化成功の肝



効果

ヘルパーの声 ①

- ・他のヘルパーの記録が読めるので、**日々のサービス状況、利用者の様子**がよくわかる
- ・訪問スケジュールがスマートフォンで管理できるので**手帳は不要**となった

効果

ヘルパーの声 ②

- ・記録票を事務所に提出しに行**手間**がなくなった
- ・慣れるまでは大変であったが、以前の**紙**の記録用紙には**戻れません**

利用者の反応

- ・確認印を押す**手間**が省けてよい
- ・**処分に困っていた**サービス記録票の控えがなくなりよかった

訪問介護事業所におけるICT化について

月末月初の大量の記録用紙やAX用紙	↓
記録内容の充実	↑
職員の事務作業の効率	↑
個人情報の事故のリスク	↓

2 令和3年度 先駆的取組みシンポジウムより

(1)「デジタル機器の活用と業務改善に向けた取組み」

市橋 奈緒美氏（特別養護老人ホーム 久我山園施設長）

＜睡眠センサーの導入＞

＜パソコン・iPhone で情報共有＞

睡眠センサーの表示内容

※ は心拍数・ は呼吸数
※データはグラフに色別表示される

パソコン iPhone

PCやiPhoneと連動
常時、情報を見ることが
できる

＜シルエットセンサーで行動把握＞

＜シルエットセンサーの情報表示＞

②シルエットセンサー

シルエットセンサーの表示

＜デジタル機器の有効活用に向けて＞

＜介護記録ソフトの見直し＞

2. デジタルで業務改善モデル事業に応募

- ◆課題：デジタル機器を導入しても業務改善は進まない。
- ◆東京都のモデル事業の取組み(令和3年12月～令和4年2月まで)
東京都の事業による、外部サポート機関に伴走してもらいながら
短期間の業務改善に取り組んだ。
- ◆取組み内容
 - ・デジタルで業務改善PT結成(基本の委員会からメンバー選出)
 - ・自施設のデジタル機器活用に関する困りごとや気づきを可視化
 - ・因果関係図を作成
 - ・職員アンケートを実施(短期間で多くの意見を集約)
 - ・目標をたてPDCAサイクルで週ごとに報告し助言を受ける

①業務改善対象：介護記録ソフト

＜活用範囲＞

- 基本情報、ケアプラン、ケア提供等、全ての情報を入れることができ、データとして活用できる。令和3年度介護報酬改定におけるLIFEと連動する。
- 個人情報を入力し、請求業務を行う。
- 職員間の日々の連絡事項の周知する。

＜課題＞

- デジタル機器の中で最も早くから導入して使用頻度も高いが、十分に活用されていない。
- マニュアルを作成し入力方法を統一していきたいが、着手するタイミングを失っている。

(2)「持ち上げない介護の取組み」

佐賀 勝之氏（特別養護老人ホーム 上北沢ホームサービス係長）

＜持ち上げない介護の導入時＞

＜持ち上げない介護の始動＞

(3) 持ち上げない介護導入当初

平成25年、腰痛の職員が多くいる状況で、福祉用具の研修を終えた職員からスライディングボード、スライディングシートの導入の提案がある。

- ・ほとんどの介護職から、使用したくない
- ・手間が増える
- ・時間がかかる
- ・腰痛になる人は介護技術がないからなる。介護技術でどうにかなる。
- ・使う意味が分からない。
- ・利用者のけがのリスクが増える。



(4) 持ち上げない介護が本格的に始動

- ①平成27年、事業計画に「持ち上げない介護の実践」
- ②検討するための委員会を明確にして次のことに取り組んだ。
 - ・定期的な内部研修(持ち上げない介護)
 - ・他施設の見学
 - ・委員が研修(リフトリーダー研修・ノーリフトケア研修)に参加。
 - ・各フロアに介護リフトを購入。
 - ・リフトリーダー研修者が試験官となり、理学療法士が作成したチェック項目を使用しテストする。合格するとリフトが使用できるようになる。(合格者施設内で8割程度)

＜持ち上げない介護の利用者のメリット＞

＜持ち上げない介護の介護者のメリット＞

抱え上げない介護のメリット

利用者

- ・身体的負担（苦痛）軽減
- ・精神的負担軽減
- ・褥瘡の防止
- ・拘縮の防止
- ・認知症の防止



抱え上げない介護のメリット

介護者

- ・身体的負担軽減
- ・精神的負担軽減
- ・腰痛の防止
- ・時間短縮
- ・業務の効率化



＜持ち上げない介護の活用機器＞

＜認知症ケアの取組み＞

⑤福祉機器（移乗時の使用率は全体の3割を超えている）



(7) その他「認知症ケアの取組み」

- ①認知症研修PTの発足
- ②この言葉を使ってはいけません
- ③定期的な委員会と認知症研修の開催
- ④年間スケジュールの管理・運営・継続



(3) 「外国人人材、認知症緩和ケア日本版 BPSD ケアプログラムの活用」

石井 りな氏 (特別養護老人ホーム 等々力の家施設長)

<外国人職員の受入れ>

3. 外国人職員の受け入れ② (等々力の家)

等々力の家 外国人職員との歩み

- 2015年12月
EPA介護福祉士候補生5名(インドネシア)の受け入れからスタート
- EPA候補生(インドネシア・ベトナム)、EPA介護福祉士・看護師、技能実習生、学生(フィリピン)など。
→延べ31名を受け入れ 現在18名が在籍



【介護職】			【看護職】	
EPA介護福祉士 3名(介護ビザ)	特定技能実習生 1名	家族滞在 2名	EPA看護師 1名(医療ビザ)	
EPA介護福祉士候補生 6名	技能実習生 2名	留学生 2名	EPA准看護師 1名	

多様性を力に

<外国人職員のサポート体制>

3. 外国人職員の育成① 4つのサポート

学習支援	就労環境	日本人との関係構築	日常生活面
<ul style="list-style-type: none"> ■月24時間、勉強時間として認めている。 ■EPA・技能実習PIによる勉強会の開催 ■通学・訪問授業(コロナ禍ZOOM授業) ■自宅学習の支援 ■事例研究発表会、せたがや福祉市民学会等へ参加 	<ul style="list-style-type: none"> ■入職直後は、生活や就労に慣れることを優先的に支援 ■日本人同様、新任職員向け研修の実施 ■6か月後より夜勤勤務開始 ■ラマダンの時期に、入浴介助の担当の軽減などシフト配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ■宗教によって、お祈りの時間・曜日、ハラールフード、ジルバブへの理解など ■職員同士交流会の開催(プライベートでも仲良く信頼関係の構築) 	<ul style="list-style-type: none"> ■住まいを整える(法人事務所との連携) ■ごみの出し方、ドアに鍵をかけるなど。 ■インドネシアの季節は2つ(夏と雨季)、日本の四季との違い ■銀行口座やWi-Fiなど

<外国人職員の育成>

4. 外国人職員の育成② 変化とこれから

業務について	人間関係について	日本の介護ケアについて
<ul style="list-style-type: none"> ◇研修体制を整えることで、外国人職員だけではなく、新入職員にも働きやすい環境になった。 ◇マニュアルや研修資料など、言葉のわかりやすさ、ふりかえり表記等。 ◇ICT・IOT化がすすみ、業務効率の向上、データ分析力がついてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇配属当初はコミュニケーションを重視。 ◇業務を通して、お互いの文化を理解。 ◇自然に近づき、年の近い職員と遊びに行く等穏やかな空気に。 ◇国籍の違いは感じられず、共通の「日本語」でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ご利用者の自立支援、残存機能を活かす、ボデイメカニクスなど介護の技術だけでなく、日本の介護ケアへの理解をさらに深めている課題 ◇言葉について、伝えきれないことのある存在はある。日本人職員でも同じ。

外国人職員をきっかけに始めたこと・外国人職員の持ち込んだ変化が、業務・職場環境の変革につながり、新たな価値が生まれている

相互理解、共生の実現

【職員定着率】'18年94.8% '19年93.1% '20年94.6%
今年度2月末日現在 介護職、看護職定着率95%以上の見込み

- ◆介護・医療の資格取得
- ◆キャリアアップ(チームリーダー、他の仕事へのチャレンジ)
- ◆日本での暮らしの継続(結婚、出産、子育てなど)

<外国人職員と認知症ケア>

5. 外国人職員と認知症ケア

	日本	インドネシア	ベトナム	フィリピン
総人口	1億2555万9千人	2億7352万4千人	9733万9千人	1億958万1千人
65歳以上高齢人口割合	29.1% (世界1位!)	6.1%	7.7%	5.3%
平均寿命	女性 87.74歳 男性 81.64歳	71.9歳	75.5歳	71.4歳

日本では2012年認知症患者数が約46万人(15%)から推計すると2025年には、約100万人(20%)の高齢者の「5人に1人」が認知症になると言われている

認知症の種類
等々力の要入居者(定員60名)

認知症の種類	人数
軽度認知症	18
中度認知症	14
重度認知症	3
認知症(要介護)	1
認知症(要介護)	25

【外国人職員】
・母国では、80才、90才、100歳の高齢者に会う機会が少ない。
・日本に来て、認知症の高齢者に「はじめて会った」という職員が多い。
⇒核家族化の進む日本において、日本人職員も同様

<認知症ケアの事例>

7. 認知症ケア 事例

【A様】

年齢	88歳	【主な行動心理症状】
要介護度	4	・興奮、暴言、怒鳴る
認知症の種類	アルツハイマー型	・たたく、杖を振り回す
		・介護拒否
		・帰宅希望

急激な変化

3月~4月にかけて、回数が高かったが、その後、急激に発生頻度は低下。

統一したケアの実践
2・3回目

<認知症ケア 背景要因をさぐる>

8. 認知症ケア 背景要因をさぐり、根拠あるケアの実践

◆多様な人材(ダイバーシティ)
新人、ベテラン、国籍、性別、年齢、資格の有無など
= 多様な視点
多様なアイデアがある

ユマニテッド×日本版BPSDケアプログラム

背景要因を探り、困りごとの根拠を見つける

データ分析
アセスメントの高度化

多職種で話し合い視点を統一
統一したケアの実践・継続

何となく感じる変化を
数値で可視化し、
効果を実感

ケアのばらつきが生まれやすい

利用者の穏やかな笑顔
家族の笑顔にもつながる

認知症ケア=チームケア
統一したケアの実践にむけて

職員のモチベーションアップ
認知症にかかわる職員の
介護力アップ



(4)「職員の離職防止の取組み」

相川 しのぶ氏（株式会社やさしい手世田谷支社副支社長）

やさしい手

- 新卒採用→毎年(人事課)
- 中途採用→ 随時採用
 - ・正社員(人事課)
 - ・日給介護員(店舗)
 - ・登録介護員(店舗)

やさしい手

- 新卒→毎年就活解禁後随時応募面接
- 中途→ 随時応募面接
 - ・自己応募
 - ・ヒトマネジャー
 - ・ハローワーク
 - ・ジョブメドレー
 - ・紹介会社(特例)

各店舗で採用活動を行い、人材PJが支援

やさしい手

中途採用

- 正社員(人事課)
 - 入社時研修
 - 中途社員研修
 - フォローアップ研修
- 日給介護員(店舗)
- 登録介護員(店舗)
 - 入社時研修
 - 更新時研修
 - 留意点会議(毎月)

やさしい手

面談を定期的実施する

- 入社後のフォロー面談
- 3ヶ月毎の目標達成面談
- 1年毎に職務役割評価面談
- キャリアビジョン面談
- 随時面談・個々に合わせて行う
- 退職時面談

やさしい手

コミュニケーションを活性化する

- インターンシップ制度を導入する(新卒)
- 新卒交流会の実施
- フェスタ開催を行い多職種交流
- 留意点会議での交流

やさしい手

働きやすい環境を作る

- 業務の効率化→モバイルネット(携帯電話)の活用
共有メールによる情報共有
健康管理
- OJTやOff-JTに力を入れる
- 3年毎にキャリアビジョンの検討→適材配置
- 必要に応じた研修実施や支援
初任者・実務者研修職得支援
介護福祉士取得研修
介護支援専門員
主任ケアマネ・認定ケアマネ・主任ケアマネ更新の資格取得補助

3 令和4年度 先駆的取組みシンポジウムより

(1) 「皮膚トラブル管理への写真の活用の開始とその副次効果」

特別養護老人ホーム 芦花ホーム：川手 彩未氏・岡崎 一也氏

皮膚トラブルの評価方法

<従来> 発見時

①部位・状態
②処置内容
③次回評価日
④推定される要因
⑤対応策

記録を残し
評価日にアセスメントを実施
処置継続or処置終了を決定

「文章」や「記憶」による
情報の伝達、申し送りとなっている

正確に情報を伝えるためには
どうすればいいのか？

可視化できる方法に変更できないか？



タブレットによる
写真撮影の導入と
ケース記録での評価を検討

●マニュアルの改正

▶チャットの活用

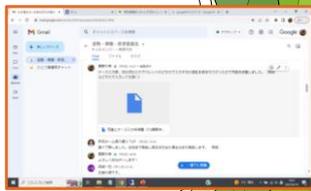
多職種で委員会が構成されている為
出勤日や勤務時間がバラバラ

意見交換や情報共有を
委員全員に図る事が困難

チャットルーム「Googleスペース」を
各職種が使用するPCで設定

「出勤時」に確認

委員全員での情報共有が可能と
なり確認が円滑に行うことができる



マニュアル作成スピードが格段に向上

課題

- ◆新たな動作が増えることへの抵抗感の払拭
- ◆PCに苦手意識を持つ職員へのアプローチ
- ◆写真撮影手順の定着

解決方法

マニュアルとは別に
「写真撮影データの取り込み」に関する手順書を作成

「この手順書を見れば
だれでも簡単に
データが取り込めるぞ！」

●職員への周知対応

- ▶フロアミーティングでの情報共有
- ▶委員が同フロア職員へ指導
→手順に習熟した職員が、別の職員へ伝達指導
- ▶今後の展望：見やすい写真の撮影方法や、皮膚状態を比較する時のポイントについて勉強会を開催

●使用例②

多職種との情報共有
「発疹」「浮腫」
病気が原因となるものや、骨折等
皮膚トラブル以外の原因が考えられる
→ 受診の必要性あり？



写真データを残すことで状態の確認、変化の可視化が可能

- ▶看護、PT、医師等
多職種間での情報共有も円滑

(2) 「ICT 導入による業務改善に向けた取り組み

～導入後が変わったこと・わかったこと～

特別養護老人ホーム 博水の郷：岩永 真祐氏・佐藤 大介氏・岡野谷 智子氏

見守り支援機器一式

見守り支援機器一式

設置場所(居室)
2F...211, 212, 213
226, 227, 228
3F...310, 311, 312
326, 327, 静養室
4F...407, 408, 415
416, 417
合計...17セット

PC画面
携帯端末画面

**PC・携帯端末
アプリインストール**

PC...14台
モバイル端末...10台

記録システム・介護保険請求ソフト

PC画面

ライセンスPC
PC
1F...7台
2F...5台
3F...5台
4F...3台
合計...24台

ライセンスiPhone+iPad
モバイル端末...10台
2F...4台 3F...4台
4F...2台
タブレット端末1台
1F(併設通所)...1台
タブレット端末(既存)...3台
3F...3台
合計...14台

端末画面

介護記録ソフトの変更

・記録の一元化
多職種の情報共有
・集計作業は自動で出来る
・携帯、タブレット端末
で記録の入力可
・請求ソフトも同じソフトで可能
情報入力が一度で済むようになった

場所を選ばず入力できる
1ケアごと忘れの前に記録できる
リアルタイムでケア実施状況が共有できる

インカムシステム

PC・端末画面

インカム使用イメージ

イヤホン+ピンマイクセット
2F...1台
2F(特養)...4台
3F(特養)...4台
4F(ショート)...2台
合計...10台

設置場所
イヤホン+ピンマイクセット
2F...4台
3F(特養)...4台
4F(ショート)...2台
合計...10セット

**アプリインストール
PC・携帯端末**
PC
2F...1台
モバイル端末
2F(特養)...4台
3F(特養)...4台
4F(ショート)...2台
合計...10台

服薬支援システム

2つの機能の連携で誤薬防止

薬の取り出し

服薬確認

服薬完了!

2. 現在使用中の見守り機器の活用事例

【導入して良かったこと NO.1】

- ①モバイル端末の記録システム
 - ・モバイル(携帯)端末があればどこでも記録などを入力でき 確認が取れる事
 - ・PCメンテナンス時には 代わりに記録が入力確認ができる
- ②インカム
 - ・各フロア、看護師との連絡が取り易くなった
 - ・内線親機までいく、看護師を探す手間が省け
その間のリスク回避や時間短縮にもつながっている

2. 現在使用中の見守り機器の活用事例

【導入して良かったこと NO.2】

- ③服薬支援システム
 - ・誤薬事故の減少につながった。顔写真も登録できるため、しっかりと確認をとってからの介助が出来る。
 - ・職員が手薄になる起床時や就寝時など他のユニットの職員に確認取ることなく済み、誤薬防止にもなる。
- ④モバイル端末
 - ・写真や動画に残すことができ、職員間で共有が出来る
 - ・リハビリのやり方や、座位などのポジショニングをPTIにレクチャーを受けた際に文章や口頭での伝達共有よりわかりやすい
 - ・居室のレイアウトの位置も画像を残すことで共有しやすくなった。

4. 導入後に見えてきた課題

- ・見守りセンサー...反応に少しタイムラグがある。(あくまでの睡眠センサー)
ベッドマットによっては反応に誤差が生じるときもある。
- ・携帯端末記録ソフト...印刷ができない、端末が小さく見えにくいと感じる職員も
タブレット端末の併用が望まれる。
- ・インカムシステム...居室内などの通信環境によって、つながらないケース
ができてしまった。
- ・モバイル端末...導入時に設定をしてなかったため音声通話やカメラ通話ができない。
できると尚、機能の幅が広がるとの意見も。

(3) 「通所リハの介護機器・ICT・生産性向上のこれまでと今後」

成城リハケア病院通所リハ：岩熊 晋平氏

リフト



事業開設時～
浴室
天井走行リフト

2019年～
ベッドサイド用
リフト

スマートTV 2020年度～



Youtubeが映るTVを活用

- ・雰囲気づくり
- ・メリハリがある活動
- ・レク準備時間の短縮
- ・記録時間の捻出

スマートTV活用事例



他に
・天気
・時事ネタ
など、アイデア
次第！

チェアセンサー 2021年度～



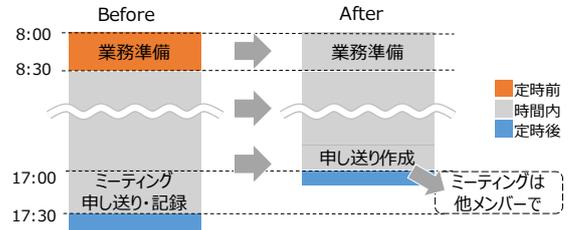
立つと音が鳴る
上にクッションを置いて使用
先回りケアが難しい方に

ドアベル（アナログ）2021年度～



空けると優しい音が鳴る
(鍵をかけない開かれた空間)

時差勤務 2020年度～



時間内で業務可能となり、早く帰宅できるようになる

時差勤務の効果 2020年～



介護ソフト（ワイズマン社製） 2023年～



オンラインで記録
複数端末から同時閲覧・編集可能
→転記が不要

(4) 「訪問介護のノーリフト研修と実践

～腰痛予防・お客様と介護者の自立支援・負担軽減～

みずたま介護ステーション明大前、三軒茶屋

山田 明美氏・柿本 輝美枝氏・羽柴 若菜氏

1. 在宅介護サービスでのノーリフト研修のはじまり

海外研修(デンマーク・オーストラリア)

2018年度オーストラリア

「ノーリフト研修、実践、勉強(勉強)!!」

6名が研修先で生活する中で、お互いの個性と学びあっています!!

2019年度オーストラリア

ノーリフトは複雑で難しいことではなく、考え方を覚えるだけで誰でも明日から行えるシンプルなことと学びました!

カンガルーにもあえました!

不安もありましたが、奮闘を持って楽しく学ぶことが出来ました!

2017年度デンマーク

興味があればぜひ研修しよう~!

「自己決定の尊重」「専門職の誇り」を肌で感じる事ができました

部署の垣根を越えた交流も良い刺激に!!

自由時間や食事も大満足!

何となく自分、夢が走り出す!

1. ノーリフトの始まり



3. 取り組み内容

ノーリフトって無敵のイメージがある

腰痛予防にもなるしお互いの負担も減る?

ノーリフトって何?

- ・ノーリフトケア理解・実践の研修内容を検討
- ・テキストを作成(海外研修参加スタッフ中心)
- ・入社時研修内容に必須研修として入れたらどうか。
- ・ステーションでの研修の開催と振り返り

3. 取り組み

22. ノーリフトケア

～研修テキスト作成～

25. ノーリフトケアの実践

～研修テキスト作成～

ノーリフト基礎的知識を理解する直学

ノーリフト実践で学ぶ研修

3. 取り組み内容

実践研修風景

4. まとめ (結果と課題)

腰痛予防の意識向上
お客様の自立支援
介護者負担軽減

【課題】

- ・継続性
- ・新たな福祉用具等の知識
- ・健康管理

5. その他の取り組み

福祉用具

朝礼での腰痛体操

5. その他の取り組み

ケア項目ごとの研修テキストがあり年間研修計画を立てている各事業所ごとの課題に合わせてスタッフが講師となり開催
⇒ 全26項目あり、必須研修【認知症】【感染予防】【虐待防止】

何でも相談できる環境作り(FANFAN活動)(リファラル活動)

